

Cr e a t e

CONTENTS

新部門長就任のごあいさつ	1	組織体制表	11
平成 19 年度 大学教育創造部門活動報告	1	高知大学 F D セミナー 2008	11
平成 20 年度 大学教育創造部門活動方針	7	Action 6 キャンドルナイト	12
平成 20 年度 大学教育創造部門活動計画	8		

2008.12 VOL. 6



本年4月より辻田 宏前部門長の後を受けて、大学教育創造部門長に就任いたしました。まだ高知大学に着任して1年あまり。前任者のようにバリバリ仕事をして部門を引っ張っていくようなことはできませんが、皆様のご支援を得て大学の教育改革の一端を担う部門の役割を果たしていきたいと存じます。

本学では、本年度より学士課程の教育改革が本格的にスタートいたします。この改革の中で当部門の果たすべき役割の主要なものとしては、

- 各種「授業改善アクションプラン」実施の支援及びその効果の検証
- 授業のピア・レビュー及びカウンセリング教員の養成
- 教育力の更なる向上のための各種OJT実施の支援

が挙げられております。いずれも授業改善力に基づく全学的な教育力向上策への支援を行うものです。

また、この学士課程の教育改革の一環として、本年度より、当部門の教育プログラム開発部会が中心となって開発を進めてきた「課題探求実践セミナー」が、共通教育初年次科目として全学的取組へと発展いたしました。これにつきまして、共通教育実施機構と協力しながら、円滑な運営と効果の検証を行ってまいります。

以上を当面の重点課題として、これまでに取り組んできた高大連携事業、ICT関連事業、および競争的外部資金の獲得とあわせて、当部門の各部会はそのミッションを果たすべく努力してまいりますので、これまでに倍するご支援を賜りますよう、あらためてお願い申し上げます。

Action
Report
2007

平成19年度 大学教育創造部門活動報告



1 教育プログラム開発部会

1. 既存開設授業の実施および評価

- ①平成19年度は、下記の授業を開講し、7月28日（自律創造学習Ⅰ・課題探求学習）および1月26日（自律創造学習Ⅰ・自律創造学習Ⅱ）において、成果報告会を開催した。また、授業ごとに、授業評価アンケートを行い、授業の効果等を分析した。
 - ・自律創造学習Ⅰ（共通教育・教養科目・社会系 第1・2学期開講）
 - ・自律創造学習Ⅱ（共通教育・教養科目・社会系 第2学期開講）
 - ・課題探求学習（共通教育・教養科目・社会系 第1学期開講）
 - ・学びを創る（共通教育・教養科目・社会系 第1学期開講）
- ②平成20年3月7日に、三重大で開催されたシンポジウム「PBL教育の実践と効果」において、事例報告（「社会協働型PBLの試みと学生の変化について」）を行った。

2. 課題探求型授業の新規実施および企画・開発

- ①平成18年度における課題探求型授業の企画募集において採択した授業を開講した。
 - ・生命現象と物理法則（共通教育・教養科目・自然系 第1学期開講）
 - ・地域協働入門（共通教育・教養科目・社会系 第1学期開講）
 - ・国際協力入門（共通教育・教養科目・社会系 第1学期開講）
 - ・英語ワークショップ（共通教育・教養科目・社会系 第2学期開講）
- ②地域での協働活動に関心のある学生を対象として、下記の科目を企画・開講した。
 - ・地域協働演習Ⅰ・Ⅱ（共通教育・教養科目・社会系 第1学期開講）
 - ・地域協働企画立案（共通教育・教養科目・社会系 第2学期開講）

・地域協働入門Ⅱ（共通教育・教養科目・社会系 第2学期開講）
 地域協働演習Ⅰ・Ⅱは、農林水産省農中国四国農政局高瀬農地保全事業所と協働で授業を企画・開講した。同事業所の管轄となる仁淀川町長者地域をフィールドとし、地域住民とのワークショップを中心にした調査活動および報告会を実施した。地域協働企画立案は、高知県企画振興部政策推進課（2030年を豊かに生きる検討グループ）と協働で授業を企画・開講した。人口減少が進んだ2030年の高知県の地域社会はどうなっているのか、その時代に向けて現代の若者は何をすべきかなどを検討した。地域協働入門Ⅱは、森林鉄道遺産利活用検討専門委員会と協働で授業を企画・開講した。高知県東部中芸地域をフィールドとし、同地域に存在した森林鉄道と産業遺産に向けた活動に関連した調査活動および報告会を実施した。

③平成20年度に、共通教育初年次科目として「課題探求実践セミナー」が新たに開設されることが決定し、それに関連する授業の検討を行った。これまでに本部会がかかわった授業のうち、自律創造学習Ⅰ、自律創造学習Ⅱ、課題探求学習を再編成して自由探求学習Ⅰ・Ⅱとし、学びを創る、地域協働入門、国際協力入門、地域協働入門Ⅱは、そのままの形で「課題探求実践セミナー」に引き継ぐこととした。地域協働入門および地域協働入門Ⅱについては、これまで対象としていた地域ごとに再編成して、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲとして開講することとした。

3. 教育GPに関する調査・検討

①平成19年度「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム」（学生支援GP）において、本学が申請した事業「コラボ考房と2つの道場が育む自律型人材 — 教育的支援機能と活動実践の場の提供を基軸とする準正課システムの構築—」が採択された。この取り組みは、これまで、本部会等が開発してきた課題探求型授業を通じて顕在化した学生の意欲をさらに引出し高めるために、自発的な活動実践の場の提供と、教員および社会人

による教育的支援を行う「準正課システム」を構築するものである。具体的には、グループで社会的課題に取り組む「コラボ考房」、個人の能力・資質の向上を目的とした「ファシリテーション力養成道場」と「企画立案力養成道場」を開設し、自律型人材の育成を目指す。

②10月以降、本年度の本学による特色GP・現代GPの申請に対する審査結果を検討するとともに、平成20年度よりこれまでの特色ある大学教育支援プログラム（特色GP）と現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代GP）のカテゴリーがなくなり、新たに、質の高い大学教育推進プログラム（教育GP）が募集されることから、それに向けた情報収集を行った。2月9・10日には、平成19年度大学教育改革プログラム合同フォーラムに参加し、関連する事業を行っている大学等の資料収集を行った。

4. その他の取り組み

①環境省が実施する「環境人材育成のための大学教育プログラム開発事業」に関連して、2月13日に行われた「環境型リーダー育成試行プログラム事前検討会」に参加し、「高知大学における環境型リーダープログラムの取組」の報告を行うとともに、3月6日に武蔵工業大学の佐藤真久氏を招いて試行プログラムを、2月18日、3月5日、21日に、関連する実践学習をそれぞれ実施した。また、3月24日には「持続可能なアジアに向けた大学における環境人材育成ビジョン」発表シンポジウムに参加し、環境人材育成のための大学教育プログラム開発事業の申請に関する情報収集を行った。

②2月10日に、「国連持続可能な開発のための教育の10年促進事業」に関して、「土佐の海の環境学」を共同実施しているNPO法人黒潮実感センターが「さとうみシンポジウム」を開催し、本部会が共催した。テーマは、「真の豊かさとは？ —古くて新しい理念としての里海を考える—」であり、高知県大月町柏島における里海づくりについての検討を行った。



S・O・S 支援部会

1. 学生相互支援企画(案)の募集 及び採択等について

従来までの情報セクション及び国際セクションという区分をなくして、学生の申請に基づく多種多様な学生によるピア・サポート活動をS・O・Sとして幅広く認定し支援を行うことになって2年目となった。①すべての学生に対して門戸を開き、②その活動に公共性があり、③学生が相互

に支援する活動であるならば、可能な限り幅広く学生の自主的な活動を支援しようと試みたが、応募・採択した企画は昨年度とあまり変わらないものであった。このことを受けて、次年度からは、募集段階で学生へのメッセージが伝わりやすいように何らかの工夫を行い応募数の増を図ることとなった。今年度、採択された企画は次頁の通りである。

2007年度 学生による「学生相互支援」企画 採択一覧

	企画名 (企画内容)	チーム名	支援教員
1	高知子ども守り隊～守るんジャー～	守るんジャー	小島郷子 (教育学部)
2	なはりサポータークラブ	なはりサポータークラブ	上田健作 (人文学部)
3	『学生が一步踏み出すきっかけマガジン“KITSCH”～キッチン～』	チーム★ぼうしばん	中澤純治 (人文学部)
4	Candle Night in Kochi University	キャンドルナイト実行委員会	中澤純治 (人文学部)
5	就職活動サポート	高知大学就活会	中澤純治 (人文学部)
6	Hand to Hand	Hand to Hand	藤田詠司 (教育学部)
7	「動けば変わる～てんくろう～」	「動けば変わる～てんくろう～」	小島郷子 (教育学部)
8	学援隊 (G.E.T) のさらなる挑戦Ⅱ	学援隊 (G.E.T)	岡谷英明 (教育学部)

2. プレゼンフェスタ 2007 の開催について

今回で7回目を迎えた恒例のプレゼンフェスタ2008は、1月27日(日)、高知市内のひろめ市場入口のよさこい広場にて開催された。昨年度に引き続き、学外(屋外)での開催となった。今年のエントリーチームは計14チームで、大学生チームが11チーム、高校生チームが3チームであった。

近年、高校生チームが成績の上位を独占する状況が続いており、審査員からは大学生のプレゼンの質が落ちているという指摘もある。その背景には大学生のモチベーションが低下していることが考えられる。そのこともあって、あくまでも学生の意欲や自主性に任せている企画であるプレゼンフェスタは、一旦中断することとなった。今後の復活に期待したい。

(1) 連携授業プロジェクト、(2) 高大連携教育プログラム開発プロジェクト、(3) 高校生プレゼンフェスタの3つのプロジェクトを実施した。(1) 連携授業プロジェクトは、開発が終了した教育プログラムを連携学部等と主管高校が高知県下の高校生に公開して協働実施するものであり、(2) 高大連携教育プログラム開発プロジェクトは、連携学部等と研究開発校が協働して高大接続に資する教育プログラムを実践的に研究・開発するものである。(3) 高校生プレゼンフェスタは、主体的に学ぶ高校生が、学びの中で培った知見や思いを自由に交流する場として開催している——高大連携事業の中で活動した高校生の報告の場としての位置づけもある。尚、平成19年度は、参加高校11校(14チーム)、150人の参加であった。

プロジェクトの概要は上表の通りである。



高大連携教育部会

(1) 連携授業プロジェクト、(2) 高大連携教育プログラム開発プロジェクト、(3) 高校生プレゼンフェスタの3つのプロジェクトを実施した。(1) 連携授業プロジェクトは、開発が終了した教育プログラムを連携学部等と主管高校が高知県下の高校生に公開して協働実施するものであり、(2) 高大連携教育プログラム開発プロジェクトは、連携学部等と研究開発校が協働して高大接続に資する教

育プログラムを実践的に研究・開発するものである。(3) 高校生プレゼンフェスタは、主体的に学ぶ高校生が、学びの中で培った知見や思いを自由に交流する場として開催している——高大連携事業の中で活動した高校生の報告の場としての位置づけもある。尚、平成19年度は、参加高校11校(14チーム)、150人の参加であった。

プロジェクトの概要は以下の通りである。

(1) 連携授業プロジェクト

授業名	連携学部等	主管高校	参加高校	参加生徒数	授業時間数
①「自然科学概論」(SPP)	理学部	高知西高校	高知西高校	25	30
			高知南高校	11	
			合計	36	
②「理学基礎実験」(SPP)	理学部	高知南高校	高知南高校	13	30
			学芸高校	4	
			高知東高校	1	
			岡豊高校	1	
			高知丸の内高校	1	
合計	20				
③「クリエイティブ・シンキング」	人文学部	高知西高校	高知西高校	18	30
			春野高校	5	
			須崎高校久礼分校	2	
			合計	25	

(2) 高大連携教育プログラム開発プロジェクト

プロジェクトテーマ	連携学部等	研究開発高校	プロジェクトの概要
①高知大学と県立学校の高大連携の運用について	理学部・農学部・総合教育センター大学教育創造部門	高知丸の内高校	単位制普通科高校における大学授業の活用(高校生の大学授業の受講)による高校教育課程構築の可能性に関する実践的研究。高校生が受講した大学授業は、「地震と活断層」(理学部)、「防災科学」(理学部)、「学びを創る」(共通教育)、「自律創造学習Ⅰ」(共通教育)、「土佐の海の世界学」(共通)、「アグリ・ベーシック」(農学部)
②大方高等学校におけるアントレプレナーシップ教育プログラムの開発	総合教育センター大学教育創造部門	大方高校	高知大学におけるキャリア教育やその他の資産を活かして、単位制普通科高校における地域アントレプレナーの養成を目指した3年一貫のアントレプレナーシップ教育プログラムを総合的学習の時間のプログラムとして開発する。
③環境学習における高大接続教育プログラムの開発	理学部・農学部・黒潮圏海洋科学研究科・総合教育センター大学教育創造部門	四万十高校	自然環境問題に対する見方、考え方を身に付ける高校教育プログラムを、大学授業(「土佐の海の世界学」)の活用を柱として、当該授業のための事前・事後学習プログラム(高校で実施)を「クリエイティブ・シンキング」の手法を導入して開発する。
④農業の特色を生かした総合学科の授業プログラム開発	農学部	春野高校	地域の農業後継者の育成を目指して、農業科の授業科目において、高知大学農学部の教授・学生、または地域の参加により、高等学校の授業だけでは学べない学習のプログラムを開発する。



4 教育・授業評価部会

教育・授業評価部会は年度計画に基づき、共通教育学生委員会と協力して以下の取組を行った。

各種アンケートフォーマットの検討 (年度計画 2,7,8,25)

平成 19 年度は昨年度に引き続き共通教育学生委員会と協力し、学生の視点を入れてアンケートフォーマットの検討を行った。さらに長期インターンシップの受け入れ先であり仲介業者である NPO 法人 ETIC に協力をいただき、検討の助けとした。その結果、卒業生アンケート等は改善の必要がないと思われた。同時に、社会人基礎力の養成と自己評価を目的に作成した ETP アセスメントを課題探求型授業等で頻繁に行うのが効果的と思われた。

また、新しい授業評価アンケートとして、第 5 週目アンケートに始まるアクションプランを軸とした三段階の授業評価アンケートを企画し、試行を行った。その結果、コ

ミュニケーションツールとして有効であること、PDCA サイクルを一学期内に一回転させられること、外部評価の客観的資料を自動的に提供できることなど、単なる評価ではない効果を上げられることが分かった。

フィードバックシステムの検討 (年度計画 63)

教員から学生へのフィードバックについて、共通教育学生委員会と協力して検討を行った。試験、レポートのフィードバックにとどまらずアンケート等もフィードバックすることが望ましいとの意見から 5 週目アンケート企画によりアクションプラン、フィードバックとして導入した。またオンライン学習支援システムのアンケート機能、掲示板機能やファイル添付機能がフィードバックのオンライン化に十分使えることから、平成 20 年度作成予定の Tips 集に簡単なマニュアルとしてまとめることとした。



5 FD企画・実施部会

1. 新任教員FD研修の開催

- 開催日：2007年9月3日(月)9:30～16:30
- 会場：総合研究棟第1会議室/メディアの森 端末室

- プログラム：開会挨拶(総合教育センター長 吉倉紳一) / 高知大学の教育施策について(高知大学理事・副学長 松永健二) / 保健管理センターからみた高知大生の一側面(保健管理センター 講師 北添紀子) / 「新入生ア

ンケートを通して」(総合教育センター 准教授 立川明) / 研修「オンライン学習システムの利用について」(立川明) / グループディスカッション「高知大学の教育課題を探る」(ファシリテーター：FD企画実施部会委員) / 全体ミーティング

例年、新任教員のFD研修はこの時期に開催されるが、これは着任後一定の期間を高知大学の教員として過ごし、本学の教育や学生気質に触れた上で、あらためて新規着任教員にFD研修を受けてもらうことによって研修の実を挙げようとするものである。本年度は、前半はコメンテータより新任教員に高知大学の教育内容や学生の動向に関する情報を得ながら、これに対する質疑応答を行った。昼食休憩後、オンライン学習システムの利用に関する実地研修ははさんで、後半は「高知大学の教育課題を探る」というテーマのもとグループワーク学習の実際を体験しながら課題に取り組んだ。

2. 全学FDフォーラム 2007

- 開催日時：12月5日(水) 15:00～17:00
- 会場：メディアの森 メディアホール
- テーマ：相互授業参観に学ぶ ― 取組報告とパネルディスカッション
- 報告：理学部(学務委員長 鈴木知彦) 教育学部(学務委員 三宅志穂) 農学部(学務委員長 川合研二) 共通教育(共通教育学生委員会)

2008年度より学士課程におけるFDが義務化されることを受けて、本年度は教員の教育力向上の重要なツールと

して本学でも以前から実施している相互授業参観について、各学部・部局の取組の報告と、その効果や実施上の問題点について、フロアも交えたパネルディスカッションを実施した。特に共通教育学生委員会の報告は、学生自身が共通教育科目の授業参観に参加し、学生の視点から授業改善に向けた提言を行った。

3. 大学基礎論・課題探求実践セミナー 授業担当者FDワークショップ

- 開催日時：3月14日(金) 10:00～15:00(朝倉)
3月17日(月) 10:00～15:00(朝倉)
3月21日(金) 10:00～15:00(物部)
- 会場：朝倉キャンパス 総合研究棟 2F 第3会議室
物部キャンパス
- コーディネーター：立川明 塩崎俊彦
- プログラム：(午前) ガイダンス / チームビルディング / EIPアセスメントの実施とそのねらい / 大学基礎論の授業イメージ (午後) ワークショップ「大学基礎論こうすればうまくいくかな?私の提案」 / 1分間プレゼン：大学基礎論ここがわからない? / 演習1：問題点の共有/テーマを絞り込む / 中間プレゼン：他チームの様子をうかがう / 演習2：授業運営の提案 / 最終プレゼン：こうすればうまくいく!授業への提案

2008年度より開講される「大学基礎論」、「課題探求実践セミナー」の担当教員を対象に、グループワークの進め方やファシリテーションの実際についてのワークショップを実施した。



e-Learning 部会

e-Learning 部会は平成19年度年度計画に基づき、共通教育学生委員会と協力して以下の取組を行った。

シラバスの改善について(年度計画32)

共通教育学生委員会と協力し、シラバスフォーマット、およびシラバスシステムの改善を検討しシラバス実施専門委員会に報告した。

シラバス入力フォーマットの改善に伴い、入力フォームの説明文の変更について実施専門委員会に報告した。

オンラインシステムの改善について(年度計画60)

共通教育学生委員会と協力し、オンライン学習支援システムの改善、機能強化についての検討及びALC ネットアカデミー利用率改善のため利用方法等の情報を集約ししおりをデザインし、作成した。

また農学部と協力して、情報教育の授業改善について検討を行った。その結果、アクティブラーニングの手法を取り入れた授業を実施し、習熟度自己診断により成果の測定を行い、情報教育研究集会で報告した。またこの授業についてはOJTによるFD教員を受け入れて実施した。



1. 部会の構成の変更

本年度より専任 2 名、兼任 3 名によって部門を運営していかねばならない現状から、従来の 6 部会構成を 5 部会構成にあらため、効率的に実効性のある運営形態をめざす。

総合教育センター 大学教育創造部門

- ・教育プログラム開発部会
- ・S・O・S 支援部会
- ・高大連携部会
- ・FD・教育評価部会
- ・E I C T 部会 (Information and Communication Technology on Education)

2. 教育プログラム開発部会

～課題探求型授業の支援と開発～

- ・課題探求実践セミナー(自律協働入門、自由探求学習 I・II、国際協力入門、地域協働入門、学びを創る)の開講
- ・「CBI」関連授業の開講
- ・課題探求型授業の開発支援および実施
- ・既存授業の点検・評価(課題探求実践セミナー等の必修化にともない、その定着と内容の向上のために、本年度の実績を点検する。)
- ・全学的取り組みに移行したことより、GP 申請に向けた作業の支援を行う。

3. S・O・S 支援部会

S・O・S の活動状況の変化に応じて、採択分野を、1) 学生によるピア・サポート、2) 学生による地域貢献の二つに仕分け、支援を続ける。

4. 高大連携教育部会

既存の連携校との教育プログラム・授業の強化・充実をはかるとともに、高大双方の教員の教育力向上のために、具体的施策を企画し実施する。

5. FD・教育評価部会

- ・新任教員(大学教員経験のない者)のピア・サポート
はじめて大学の教壇に立つ教員を対象に、5 週目アンケートの実施後、アクションプランの作成についてサポートを行う。
- ・連続 FD セミナーの実施
 - ① 9/1(月) 新任教員研修
 - ② 9/4(木) Power Point 超入門
 - ③ 9/4(木) EICT を授業に活用する!
 - ④ 9/18(木) TBL(Team Based Learning) ワークショップ(医学部 三木)
 - ⑤ 9/25(木) 授業デザインからシラバスへ
- ・5 週目アンケートの改善を中心としたフィードバック手法の開発
- ・グループワーク型授業の定着のための FD の実施
- ・全学 FD フォーラムの実施(グループワーク型授業の実践例報告会 or カリキュラムデザイン)
2009 年 2 月開催予定
- ・Teaching Tips の作成
- 全学配布の方法の問題
- Tips のテーマにもとづいた FD カフェ(仮称)の開催

6. EICT (Information and Communication Technology on Education) 部会

昨年度に引き続き e-Learnig の全学的普及のために、主体的・客体的環境条件の整備を行う。特に学生へのフィードバック手法の一環として、ICT を利用するための環境を整備する。





教育プログラム開発部会

平成20年度の活動は、主として、開設授業の実施および評価、新規教育プログラムの企画・開発・運営・支援、教育GPに関する調査・検討を行う。

(1) 通年：開設授業の実施および評価

- ・第1学期開講授業：課題探求実践セミナー（自由探求学習Ⅰ、学びを創る、地域協働入門Ⅰ・Ⅱ、国際協力入門）
- ・第2学期開講授業：課題探求実践セミナー（自由探求学習Ⅱ、地域協働入門Ⅲ）
- ・課題探求実践セミナー（自由探求学習Ⅰ・Ⅱ）の成果報告会（7月下旬・1月下旬）

・開設授業の評価および改善策の検討

(2) 通年：新規授業の企画・開発・運営

- ・新しい課題探究型授業の開発・支援
- ・環境人材育成に関する教育プログラムの開発

(3) 10月～3月：教育GPに関する調査・検討

- ・教育GPに関する学内調査
- ・平成21年度申請に向けた情報収集

(4) 通年：その他

- ・学生支援GP関連事業の検討
- ・地域協働型課題探求プログラム「こども運動大学」の開発



S・O・S支援部会

S・O・S支援部会は、本学の公的な学生相互支援（ピア・サポート）活動組織であるS・O・S（Students' Organization Self-help and Official Support）の認定・支援等を行い、学生の自律的な能力の形成に寄与することを基本ミッションとしている。

平成18年度からは、学生の申請に基づく多種多様な学生によるピアサポート活動をS・O・Sとして可能な限り幅広く認定し支援を行うことになっている。すなわち、①すべての学生に対して門戸を開き、②その活動に公共性があり、③学生が相互に支援する活動であるならば、原則として本学の公的組織S・O・Sとして認定され、財政的な支援も受けられるようになっているのである。

しかしながら、応募数は依然として横ばい状態であり、新たな企画の掘り起しができていない状況にある。今年度は、この状況を少しでも改善するために、募集段階で学生に対して分かりやすいメッセージを伝えるべく、新たに①学生のためのピア・サポートを目的とした活動、②地域活動・地域貢献を目的とした活動、の二つの応募区分を設定した。

なお、具体的な活動方針は以下の4つである。

- (1) 学生による多種多様なピア・サポート活動の発掘(募集)と拡大
- (2) 相互支援活動組織である各プロジェクトチームの支援の充実
- (3) 新しいS・O・S活動及びS・O・S支援活動システムの定着
- (4) 新しいS・O・S活動及びS・O・S支援活動システムの検証

活動計画

事業項目	日程	具体的な活動内容
企画の募集要項の作成	4月	2008年度 学生相互支援企画の募集要項の確定
企画の募集・審査等	4月	学生相互支援企画の募集・審査・採択
成果報告会	5月	2007年度 学生相互支援企画の成果報告会
認定証の交付	6月	S・O・S プロジェクトチームの学生に対する認定証の交付
リーダー会議	6月	新規採択企画（プロジェクト）のファシリテイト
リーダー会議	7月	活動報告・意見交換・ファシリテイト
学生研修会	12月	チーム・ビルディングに関する研修会
リーダー会議	1月	活動報告・意見交換・ファシリテイト
2008年度の総括	3月	S・O・S 支援部会活動のまとめ



高大連携教育部会

高大連携教育部会としては、平成 20 年度も 3 つのプロジェクトを平成 19 年度と同じ方針で引き続き実施する。開発が終了し新たに連携授業プロジェクトとして実施

することになった取り組みが 2 つ、連携教育プログラム開発として新たに 1 件が追加される。
概要は以下の通り。

(1) 連携授業プロジェクト

授業名	連携学部等	主管高校	備考
① 「自然科学概論」(SPP)	理学部	高知西高校	継続事業
② 「理学基礎実験」(SPP)	理学部	高知南高校	名称変更「高校生のための楽しい数学・理科講座」(SPP)
③ 「クリエイティブ・シンキング」	人文学部	高知西高校	継続事業
④ 「土佐の海の環境学」	理学部・農学部・総合人間自然科学研究科黒潮圏総合科学専攻・総合教育センター大学教育創造部門・黒潮実感センター	四万十高校	新規（開発から）
⑤ 自立創造型地域課題解決学習（総合的な学習時間）	総合教育センター 大学教育創造部門	大方高校	新規（開発から） *キャリア教育の教員研修として公開を予定

(2) 高大連携教育プログラム開発プロジェクト

プロジェクトテーマ	連携学部等	研究開発高校	プロジェクトの概要
① 高知大学と県立学校の高大連携の運用について	理学部・農学部・総合教育センター大学教育創造部門	高知丸の内高校	単位制普通科高校における大学授業の活用（高校生の大学授業の受講）による高校教育課程構築の可能性に関する実践的研究。高校生が受講した大学授業は、「地震と活断層」（理学部）、「防災科学」（理学部）、「学びを創る」（共通教育）、「自律創造学習Ⅰ」（共通教育）
③ 高知大学と県立学校の高大連携の運用について（仮）	総合教育センター 大学教育創造部門	高知北高校	単位制普通科高校における大学授業の活用（高校生の大学授業の受講）による高校教育課程構築の可能性に関する実践的研究。高校生が受講した大学授業は、「学びを創る」（共通教育）、「自律創造学習Ⅰ」（共通教育）
④ 農業の特色を生かした総合学科の授業プログラム開発	農学部	春野高校	地域の農業後継者の育成を目指して、農業科の授業科目において、高知大学農学部の教授・学生、または地域の参加により、高等学校の授業だけでは学べない学習のプログラムを開発する。開発授業名「グリーンライフ」、「果樹」、「植物バイオテクノロジー」、「野菜」。

(3) 高校生プレゼンフェスタ 2009 年 2 月 14 日（土）実施予定。



FD・教育評価部会

2008年度活動計画

アクションプランによる授業改善への支援

第5週目アンケート、相互授業参観、ピア・レビューの3つの手法による授業改善への取組の支援を行う。

新任教員FD研修開催

■日程：9月1日

2007年10月以降着任の教員を対象に、本学の教育内容やその課題について、ワークショップ形式で実施する。

全学FDフォーラム

■日程：2009年2月

本年度より導入された大学基礎論、課題探求実践セミ

ナーについての学部・部局の取組報告とパネルディスカッション。共通教育実施機構と共催。

高知大学FDセミナー2008開催

授業改善のための手法（オンライン学習システムの利用法・シラバスの書き方・グループワークの手法など）についての連続セミナーを実施する。

FD Tips 編集・発行

授業改善のための手法をTipsに編集し教員に配布する。

『高知大学教育研究論集』編集・発行

新たな手法による教育実践の報告、FDに関する研究報告などを内容とする。全学より投稿を募集する。



EICT部会 (Information and Communication Technology on Education)

昨年度までのe-Learning部会に引き続き、e-Learning環境の充実のための検討を行うとともに、香川大学が主管校となり採択された戦略GP「e-Knowledgeコンソーシアム四国」の活動に協力し、具体的には以下の活動を行う。

シラバスの改善について (年度計画 32)

シラバスのフォーマット、記述内容、利用率の改善について、昨年度に引き続き共通教育学生委員会と協力して学生の視点を入れて改善の検討を行う。GAKUENの更新に伴うシステムの改善検討に協力する。

- ・共通教育学生委員会と協力し、シラバスフォーマットの改善を行う。(～12月)
- ・GAKUENの更新に伴うシラバスシステムの改善に協力する。(～3月)
- ・シラバス入力フォームの改善について検討する。(～12月)
- ・シラバスの内容を改善するため、入力の際の注意事項の変更について検討する。(～12月)
- ・シラバス作成に関するTips集を作成する。(12月)

オンラインシステムの改善について (年度計画 60)

昨年度に引き続き共通教育学生委員会と協力し、オンライン学習支援システムの改善、機能強化について検討するとともに、利用率の改善に向けての検討を行う。

また、引き続き農学部と協力して、情報教育の授業改善の検討を行う。この授業について、OJTによるFD教員を受け入れる。

- ・農学部と協力して、情報教育の授業改善の検討を行う。(1学期)
- ・農学部情報処理におけるOJTFD教員の受け入れを行う。(1学期)
- ・オンライン学習支援システムの利用に関する教員FDを行う。(9月)
- ・オンライン学習支援システムの利用に関するTips集を作成する。(6月)
- ・共通教育学生委員会と協力し、オンライン学習支援システムの改善、機能強化について検討する。(～3月)
- ・各学部、組織が行うオンライン学習支援システム利用説明会に協力する。(通年)
- ・情報処理ビデオ教材の導入を行う。(～3月)
- ・情報処理テキスト・ビデオ教材に沿った準備確認テスト(RAT)の開発を行う。(～3月)

「e-Knowledgeコンソーシアム四国」への協力

香川大学主管の戦略GPに協力し、e-Learningコンテンツの作成、e-Learningコンテンツ利用に伴う規則等の整備について検討する。

- ・e-Learningコンテンツの作成および履修に関する規則案の作成に協力する。(～12月)
- ・e-Learningコンテンツ作成支援(TA教育)に協力する。(2学期)
- ・共通教育棟への無線LANの設置について検討する。(～3月)
- ・授業記録システムの設置について検討する。(～3月)



大学教育創造部門組織体制表

部門長：塩崎 俊彦

教育プログラム開発部会		
石筒 覚	部会長	人文社会科学部門／総合教育センター兼務
辻田 宏	委員	人文社会科学部門／総合教育センター兼務
内田 純一	委員	教育学部門
岡本 達哉	委員	理学部門
都竹 茂樹	委員	医学部門
後藤 純一	委員	農学部門

S・O・S 支援部会		
辻田 宏	部会長	人文社会科学部門／総合教育センター兼務
池田 啓実	委員	人文社会科学部門／総合教育センター兼務
中澤 純治	委員	人文社会科学部門／総合教育センター兼務
小島 郷子	委員	教育学部門

高大連携教育部会		
上田 健作	部会長	人文社会科学部門／総合教育センター兼務
岡谷 英明	委員	教育学部門
村上 英記	委員	理学部門
奥谷 文乃	委員	医学部門
永田 信治	委員	農学部門

FD・教育評価部会		
塩崎 俊彦	部会長	人文社会科学部門／総合教育センター
立川 明	委員	人文社会科学部門／総合教育センター
増田 匡弘	委員	人文社会科学部門
山中 文	委員	教育学部門
逸見 豊	委員	理学部門
三木洋一郎	委員	医学部門
岩崎 貢三	委員	農学部門
大石 達良	委員	共通教育委員会選出

EICT 部会		
立川 明	部会長	人文社会科学部門／総合教育センター
塩崎 俊彦	委員	人文社会科学部門／総合教育センター
遠山 茂樹	委員	人文社会科学部門
中野 俊幸	委員	教育学部門
三好 康夫	委員	理学部門
戸田由美子	委員	医学部門
尾形 凡生	委員	農学部門
斉藤 卓也	委員	総合情報センター
西村 宜浩	委員	学務課修学推進グループ



高知大学FDセミナー 2008

大学教育創造部門では本年度より、教員の教育力向上を支援するために、高知大学FDセミナーを開催することにしました。これまで行われていた新任教員FD研修に加えて、一般教員をも対象とした以下のプログラムが実施された。(9月1日) 新任教員FD研修 (9月4日) PowerPoint 超入門・ICT を授業に活用する (9月17日) TBL (Team Based Learning) ワークショップ (9月25日) 授業デ

ザインからシラバスへ

TBL ワークショップは医学教育創造・推進室の全面的な協力を得て、同室の三木洋一郎准教授のコーディネートによって行われた。教員とともに学生、職員の参加を願い、活発なグループディスカッションが可能となった。ご協力いただいた医学教育創造・推進室の皆さんに感謝申し上げます。



でんきを消してスローな夜を

Candle Night

2008.12.21

キャンドルナイトは、
全国各地で一斉に電気を消して
キャンドルの灯りだけで夜を過ごし、
電力削減・環境問題について考えてもらうためのイベントです。
そして、スローな時間の中で大切な人と一緒に、
忙しい日常で忘れかけていた
大切なことや想いを感じてもらうことも目的の一つとなっています。
キャンドルナイト実行委員会は、2007年度の夏至、冬至の二回、
高知大学赤レンガでこのイベントを実施しました。

2008年度、
夏至のキャンドルナイトでは新たにカフェというコンセプトを加え、
「キャンドルカフェ」を開催しました。
キャンドルカフェでは地産地消によるエコ活動を実施。
2000個以上のキャンドルのもと、
ゆずネード、米粉・はったい粉団子を楽しんでもらいました。
他にも、高知大学生による生演奏やゴミ箱で作った
キャンドルモニュメントも展示しました。
当日は200人以上の人にお越しいただき、とても反響がありました。
次は12月21日の冬至にこのキャンドルナイトを開催します。
学生だけでなく、地域の方々にも
参加してもらえるようなイベントにしていきたいです。

来いや♡キャンドルナイト

高知大学キャンドルナイト実行委員会

